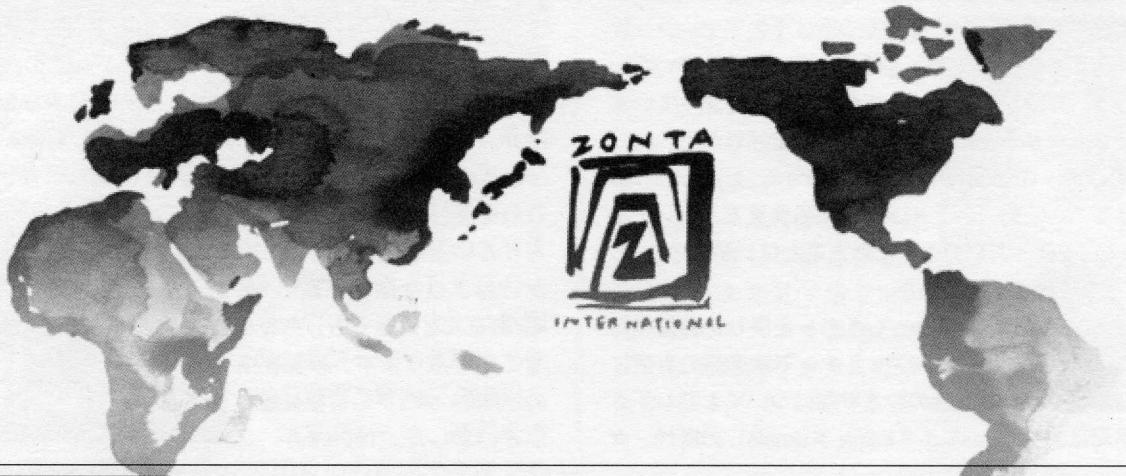
ZONTA INTERNATIONAL

OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪IIゾンタクラブ第11号（1999年8月）



会長に就任して

会長 川村　くに

大阪IIゾンタクラブは、今年八月で七年目を迎えることになりました。今までは若いクラブと言われておりましたが、いつまでも若いクラブでは通らなくなりました。その大切な時期に会長という重責を負うことになり、身のひきしまる思いが致します。

私達のクラブでは、ゾンタの精神である、信頼と奉仕に添って、奉仕活動として、年に一回、コンサートと、講演とコンサートのチャリティイベントを隔年に行って奉仕資金としてきました。フォスターペアレント、大阪市にはハクモクレンを毎年寄付してきました。アイバンク、ネパール眼科診療の支援、ライトハウス、老人ホーム慰問等行ってきました。一方女性の地位向上の目標に添ってはアジア女子留学生の支援や又年に一回女性の健康シリーズ講演会を開いております。

私達のクラブはゾンタ活動を通じて、互いに心の分かる良いコミュニケーションが出来て活動しやすい良い状態になっております。ここまで大阪IIゾンタクラブのレベルアップ、中身の充実をさせて来られました初代西会長、次いで辻会長、前期の宮本会長に心より敬意を表します。これからもますます組織強化を図って活動的な会にしてゆきたいと思います。

2001年にはエリアミーテングのホストクラブを務める事になります。エリア4の Sister zontiansを、華美にならず、品位ある心のこもったおもてなしでお迎えしたいと思います。他のゾンタクラブと共に活動するのは初めての事です。ゾンタ精神、目的を大切にして会員全体がゾンタに精通しなければなりません。ワンポイントレッスンを企画して勉強しましょう。

大阪IIゾンタクラブは、内には和を外には団結を以て活動したいと思います。知的で行動的な会員の皆様、暖かい御支援をよろしくお願い致します。

女性と健康シリーズ講演会講師 植木實先生を囲んで

2年間をふりかえって

宮本　典子

会長という機会を与えていただき有難うございました。

長くて短かった会長としての2年間をふりかえってみて、何より私自身大きな収穫だつた、多くの素晴らしい異業種の方々とお会いでき、たくさんのことをお教えいただき、とても幸せなことであったと思っています。先輩クラブ、新しいクラブ、それぞれ、個性的な会員をまとめてここまでこられたクラブ会長様方、エリアや地区、そして国際ゾンタの指導的役割を担っておられる方々は、皆さんとても素晴しい、ある方はそのバイタリティーを、ある方はそのきめ細やかな思いやりを、ある方はそのファッショナブルな装いを、そして皆様の聡明さと優しさをいつも見習いたいと思ってきました。クラブに持ち帰って生かせたらと思っていました。力不足でなかなかうまくゆきませんでしたけれども。

なかでもLt.ガバナーの韓国のＹｕｎ－Ｓｏｏｋ　Ｌｅｅ様のお話を身近で聞けたこと、前ガバナー、国際指名委員で、センチュリアンのＡmy Ｌａｉ様とお近づきになれたことは、私にとって、この2年間の大きな収穫となりました。

Ｙｕｎ－Ｓｏｏｋ　Ｌｅｅ様はふっくらとした優しいお姿の持ち主で、1998年11月のトレーニングセミナーでは突然のお話にもかかわらず日本語で韓国の女性の政治参加についてお話し下さいました。21世紀は3Ｆ（Ｆeeling Ｆiction Ｆemale）の時代、女性がしっかりして現代の三大難事、すなわち環境破壊、暴力、政治の腐敗・不透明性を改める、これまでのHISTORY（His Story）を変えてゆかねばならない。またクラブのあり方について自分たちのクラブがよいクラブであるかどうかのチェックポイントとしてつぎの10項目をあげられました。クラブが 1 会員の年齢、職業が多様であるか 2 新入会員に役割があるか 3 クラブの運営が効率的になされているかどうか 4地域社会から報告、招待を受けているか 5 予算の透明性 6責任の分担　他の人の成長する機会を奪わないように 7 私欲によって分裂はないか 8 役員の技術、使命感は？去年と何かが違うと思えるか 9 他の団体から尊敬されているか（他がまねをするようになること）１０ 組織の目的に添っているか検討してゆかなくてはならないと結ばれました。私達もこれを目標に、よいクラブでありたいと思いました。私達がこのような国際家族の1員であることはとてもしあわせなことであります。無我夢中の2年間、クラブの皆様有難うございました。1999.6.6

'98.11 トレーニングセミナーで国際ゾンタ役員の方々

特集：エリア・ミーティング　於北九州

ビジネスセッションに参加して

辻　康子

昨年6月、日本が2つのエリアに分割されてから初めてのエリアミーティングが、北九州z.c.をホストクラブとして、5月7、8日に北九州八幡ロイヤルホテルに於て開催された。7日の会長会議に引き続き、8日はゾンタオフィシャルソングでエリアミーティング開会式が始った。物故者への黙祷、伊藤エリアディレクター、原ガバナーの挨拶に続き、地区アウォードが京都Ｉz.c.に贈呈された。

京都Ｉz.c.は特別養護老人ホーム「静原寮」を27年間毎月会員が交替で慰問し、茶菓の接待、話し合いなどの時間をもたれた。その間、車椅子用ライトバン「ゾンタ号」を寄贈され、現在3号を発注中とのこと。又、チャリティーバザーを32年間にわたり毎年行われていて、これらの努力と貢献に対してガバナーよりアウォードが贈呈され、満場の拍手で称えられた。ビジネスセッションは、エリア4総会員数650余名の内約3分の1に当る210余名の参加を得て始まった。今年の提案議題は、1.「26地区大会のローテーションについて」名古屋Ｉz.c.提案 2.「エリアディレクター選出方法について」大阪Ｉz.c.提案 3.「ガバナー賛助費について」松本z.c.提案の3っであった。

第1議案の地区大会のローテーションについては、1997年奈良A.M.に於いて地区大会はガバナー所在地エリアで行うことが決議されているので、1999年の地区大会はエリアＩでの開催が決定している。2年後は韓国、4年後（2003年）はエリア4、その次台湾、エリア1ーーーーと続くことになり、2003年のガバナーはエリア4より選出されることになる。（つまり次期ルテナントガバナーをエリア4から出すことになるのであるが）この議案は提案通り決議された。

第2議案　エリアディレクターの選出方法については、クラブ設立順番制（鳴門提案）、立候補制（名古屋Ｉ、大阪Ｉ提案）、設立順番制にフレキシビリティーを持たせる（広島提案）の3つの案が出され、それぞれの長所短所を経験を交えて説明されたが、採決の結果立候補公選選挙に決定した。

第3議案　ガバナー賛助費に関しては原ガバナーより前期決算書、後期予算案が準備されていなく（会場前列の方にのみ資料が配布されていたようであるが）、討議できなかったのは誠に残念であった。後日原ガバナーより地区費とガバナー賛助費を合算して、予算決算の資料を提出して頂き、これをエリア通信で発表、その後各クラブに通知という形を取ることになった。

今回の議案は何れも前もって議題のみ提示されていたが、提案理由など内容が具体的に知らされていなかった。そのために事前にクラブで討議することができないままA.M.への参加となった。A.M.でできるだけ多くのゾンシャンの意見を反映させるためには、年1回のA.M.をより有意義になおかつ効率的に運営されるべきではないであろうか。

報告：第1回エリアミーティング　ワークショップⅠ

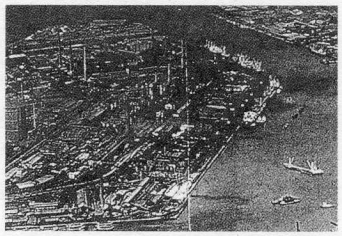
田中　茂美

「女性と環境、地球から世界へ」北九州ゾンタクラブ三隅佳子様御講演を聴いて

かつて、「死の海」「灰色の空」「公害の都市」と形容され、再起不能の環境汚染下にあった北九州市が、いかにして現況の「海」「空」「空気」を取り戻したか。市民運動、特に地域の女性達の力の結集により、市民、自治体、企業が一体となった「北九州方式」といわれる公害対策方式がどのように作られたか。更に、公害の経験を生かし環境保全に役立て、次代の環境を見据えた「循環型経済社会づくり」に向けて世界のパイオニアとして認められるまでの努力の過程を聴講させて頂いたので、その概略とまとめを私見を混じえて御報告させて頂く

1）北九州工業都市

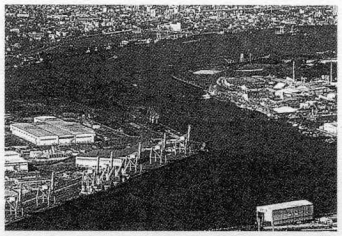
北九州市は20世紀初頭から四大工業地帯の1つとして重化学工業中心に発展して来た。特に1901年には「鉄は国家なり」の国政のもとに官制、八幡製鉄所が設置され国の鉄生産の90％以上を誇り日本の繁栄と近代化を支えた。立ち並ぶ煤煙を吹き上げる煙突は市民の誇りでもあり生活源でもあった。が1960年代になり工場排出の煤煙や汚水による環境破壊が進み、海はヘドロと化し「死の海」に、大気汚染により空は「灰色の空」と化し、多くの住民や子供に喘息が蔓延し、市民生活が脅かされるようになった。



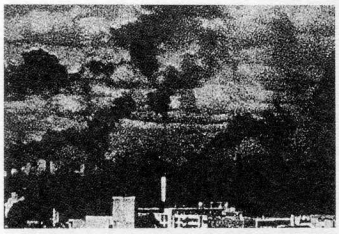
汚れた洞海湾・1960年代

2）女性による公害追放活動

1960年初頭より地域の女性達が、妻であり母である立場から夫や子供達の健康を考え、生活を守る為に知恵と力を結集して公害についての基本学習と調査活動を耐忍を持して行い、それが日本で初めての公害追放の為の社会運動に発展した。声高に自己主張を叫ぶ女性社会運動とは異なった生命を育む者としての責任と連帯感が深く静かにだが強い力となり行政や企業を動かした。①公害問題専門委員会を（市の婦人会員6、500人のうちの代表）設置、②公害実態調査の実施、③死の海を活きた海への運動（公害の実態を訴える自主制作映画『青空が欲しい』を作った）等を数年のうちに形として作り上げ、すでに1965年には市の公害対策審議会に女性代表を送り行政に女性の声を反映させ市議会や企業に対しても公害対策を要求した。結果として市民・企業・行政・研究機関が一体となった取り組みとして「北九州方式」が出来上がり我国だけでなく世界的にもその成果は高く評価されている。活きた海、青い空を取り戻したのである。



よみがえった洞海湾・現在



煙に覆われた空・1960年代

美しくなった空・現在

3）「負」の遺産を「正」の遺産に

北九州方式による公害対策が施行され継続された結果として1985年にはOECDの環境白書に「灰色の街から緑の街へ」と紹介されるようになり、1990年にはUNDPからは「グローバル500」、1992年の地球サミットでは「国連地方自治体表彰」を授賞され、国際的に環境保全都市のパイオニアとして高い評価を受けるまでとなった。更に、現在、地球規模での環境問題の解決に役立てるため、激甚な公害を克服した経験と技術を活かした環境国際協力を積極的に実施している。北九州市では国際協力事業団や九州国際センター、北九州国際技術協力協会等の研究機関と協力し、開発途上国の研修生を毎年数多く受け入れ環境保全に必要な技術、経験、生産技術改善等の修得ができるよう支援している。かっての公害という「負の遺産」を「正の遺産」に昇華し、次の世代へ「活きている海」「青い空」を受け渡すべく地球の環境保全に貢献している「北九州方式」が、元々は女性達の公害克服の為の地域活動であつた事は女性の社会活動のありようを考える上で私達に良い教示となる。

1960年・地域の家庭婦人の公害克服の活動が市民運動となった

4）まとめ

公害や環境汚染・環境破壊の問題は人間の「オゴリエーション」から生じたものだ。21世紀のキーワードは『自然との共生』といわれる。産業の発展と共に人間のオゴリエーションにより失ったものの余りも多い事は、日頃、誰もが感じている事である。生活は便利になったが、かっての海も山河も姿は変わり、そこに生きていた魚も虫も草花も動物達も数が減り影も薄くなった。水もスーパーで買う時代になり、噴出するゴミ処理は各都市の最も悩める問題となり、ダイオキシン等の環境ホルモンについての対策は未だ講じられてはいない。21世紀に美しいはずのこの地球上で全てのものが共に生きる事が出来るよう、資源の再利用・消費行動やライフスタイルを見直し「循環型の経済社会作り」を知恵を出し合い、努力し、行動を起こしていかなければ、私達が次の世代に渡せるものは「美しかった自然の想い出」だけに終ってしまう。人と地球と次の世代の為に私達のなすべき事は多く責任は重い。

三隅様のご講演を通じ、同じく都市の片隅に生活する1員として考えさせられる事が多かった。また、この度の会場が「アジェンダ21」の発信地である北九州市の、しかも、かって旧八幡製鉄所（新日鉄）本社跡地でもある八幡ロイヤルホテルで開催された事は、ゾンタエリア4、第1回エリアミーティングとして21世紀を迎えるにふさわしい意義深い幕開けといえる。

報告：ワークショップII

西　麗子

大阪Ⅰゾンタクラブ佐々木静子先生『国連と女性の地位』を聴いて

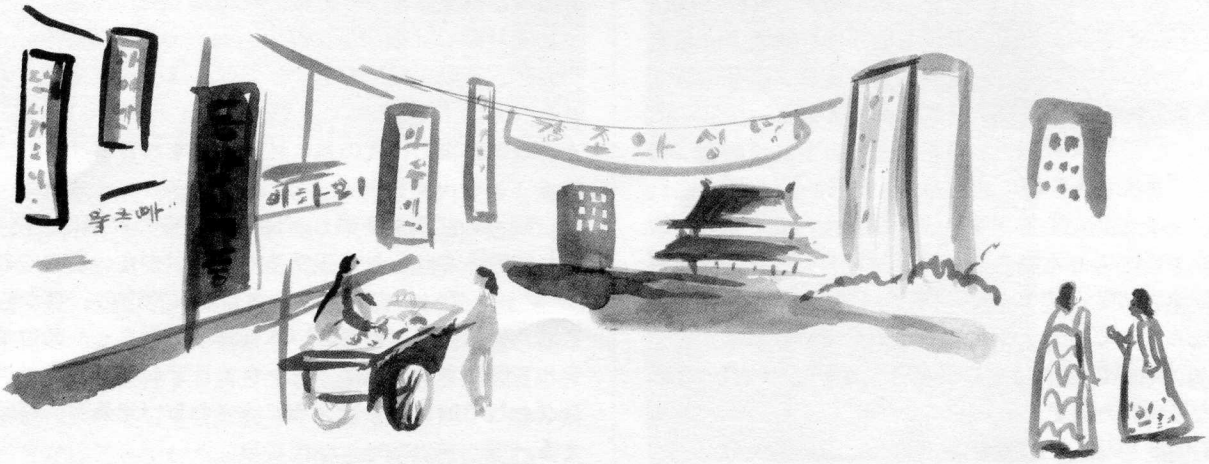
永年女性の地位の向上と女性の人権擁護に携わり、多大な業績を挙げてられる弁護士の佐々木先生はシステマティックで詳細なレジュメ・参考資料をもとに、大変アトラクティブで分かりやすい講演をされました。聞いている私達は、先生のお話に引き込まれ時間の経つのを忘れておりました。以下スペースの関係上、ご講演の骨子のみを紹介します。

1948年『世界人権宣言』が国連総会で採択されてから、満50年が経過したが、『すべての人は生まれながらに、自由であり、平等な権利を有す』との人権宣言の成立には、エレノア・ルーズベルト米大統領夫人の功績が大であった。人権思想を歴史的に見ると、当時の産業、経済等の影響を無視することはできない。人権規約には、社会権的規約（A規約、職業を与える等、1976年1月）、自由権的規約（B規約、言論の自由の保障等、1976年3月）がある。次いで女性の人権についての国連の主な動きを述べられた。1975年6月メキシコで国際婦人世界会議が開催されたが、佐々木先生は、森山真弓先生と日本代表で出席され、日本政府とコンタクトをとりつつ、メキシコ宣言『男女固定的役割の否定、女性差別の撤廃の実現を図る等』の成立にご尽力されたご苦労話を興味深く拝聴した。しかし、多くの人達の努力にも拘らず、日本の婦人の地位は低く21ヶ国中20番目だという事で、政府の行政機関の女性幹部は1％に過ぎず、賃金も35歳を境目に格差が大きくなる。また女性労働者の41.7％はパートタイム派遣労働者である。また近年議論されている夫婦別姓にも言及された。自民党の別姓反対論者は『日本は有史以来同姓であった』と同姓を主張しているが、それは事実ではない。元来庶民には姓がなく、八つぁん、熊さんで通っていた。武家は『北条政子』の如く別姓であり、夫婦同姓が定着するのは明治31年明治民法が制定されてからのことで、意外に歴史の浅いのに、驚かされた。『民法いでて忠孝滅ぶ』と言われるほど、当時としては画期的といわれた民法ではあるが、妻の無能力制度、子供の親権者は父親、家督制度（妻には相続権なし）には『何故だ』と叫びたくなる。こうして見てみると、女性の人権に関しては、歴史が浅く、ゾンタの掲げる『女性の地位の向上』は、リーズナブルな目標であることを再認識させられた。最後に有意義なご講演をいただいた、佐々木先生の益々のご発展、ご活躍をお祈りします。

グッズ販売について

吉川　陽子

二年間、六種類の「大阪Ⅱゾンタクラブグッズ」をイベントの際に売ってまいりました。テーブルの上にキラキラと輝くグッズをならべると、何というか不思議な気持ちになります。グッズ自身が誇らしげに輝いて美しく見えるのか、それともこちらの楽しい気持ちのせいなのかな？どちらかわからないけれど、心がギュッと締まります。そしてたくさんの方々の手に渡り、機会ある毎にその人を引き立てております。昨年は宮本会長がパリの世界大会に持っていって下さり、数多く売って下さいました。英語、仏語、スペイン語、などそして値段もその国によって計算するのが大変でご苦労だったと思います。今頃は外国の人たちの胸に、耳に、光り輝いている事でしょう。さて、今年度五月は北九州にてエリアミーティングが開催され、グッズも出店する事に致しました。今回販売するのは、九クラブでした。前日の会長会議の始まる前から販売してよいという事でしたので、一番乗りを目指しました。よい場所を確保し、さっそく品物をならべて一段落。これぞ大阪人の根性かなと皆さんと話しつつ。他クラブの品物は、地方が多いせいか、その土地独特のものがたくさんありました。たとえば、博多織、藍染めなどです。私たちのクラブはひときわ高級感があり、それとともに多少売りにくいけれど、一つは持っていたい品物なのだとも思います。それとメンバーの方々の口コミも大きな力です。今回ペンダント、イヤリングも製作しましたが、反対にもっと手ごろな値段のお土産用のものが必要だと感じました。会議の合間には必ず交代で販売し、おかげさまで随分収益が上がりました。皆様、本当にありがとうございました。グッズ開発は楽しい事だと思います。より素晴しいものを作って参りましょう。



わ リレー・エッセイ はじめて韓国を訪れて

徳光　正子

美しく晴れわたった五月、昼過ぎに関空を飛び立ち、わずか1時間半程でソウル金浦空港に到着した。先ず感じたことは、背の高い建物が少ないせいか、どこまでも青く澄んだソウルの空が明るく、まさに　天に向かって開かれているということだった。いつも雲におおわれている大阪に比べて意外な驚きでもあった。今回の旅の目的は、毎年行われている国家朝餐祈祷会に参加することで、大阪からは私を含めて7人のパーティーであった。もちろん私にとっては、はじめての訪問であり、体験でもあっただけに、期待も大きく胸をワクワクさせていた。ほとんど観光は楽しめなかったけれど、心に残る旅となった。数ある思い出の中で、印象深いものをご紹介してみたい。

先ず嬉しかったのは、十数年前、アメリカのコネチカットで出会った友人（当時、彼等は大学生であり、現在は帰国して仕事に携わっている）に長年のご無沙汰を詫びて連絡をしたところ、空港までわざわざ出迎えにきてくれたことである。久しぶりの再会に、胸が一杯でしばらくは言葉がでてこなかった。かって卒業後は祖国に帰って働きたいと情熱的に語っていた彼は、頭のスマートな青年で、今立派なビジネスマンに成長している姿は、まぶしくて頼もしかった。夜には、彼からの連絡を受けて、私のことを義姉と慕ってくれる彼の親友も、はるか済洲島から尋ねて来てくれたし、もう一人の友人も、忙しい仕事をやりくりしてかけつけてくれた。時間切れで南山公園のケーブルカーには乗れなかったけれど、ハイアットホテルからソウルの夜景を眺めながら、旧交を温めた。お互いの過ごした時間を分かち合うには、余りにも短いひとときではあったけれど、長い年月を越えて、言葉や国の違いも越えて、変わらぬ友情を確かめ合うことができたことは何にもまして感動的であった。過ぎ去りし春のコネチカットでの若かった日々を思わず思い出していた。

次は、やはり韓国の国家的行事とも言えるヒルトンホテルでの朝餐会について語らなければならない。前日は、国会議事堂の中にあるホールで、外国人参加者のために豪盛な歓迎レセプションが行われ、国会議員の人達が自らホスト役に廻ってもてなしをして下さった。サッカーワールドカップの韓国側代表の組織委員長である朴世直氏もおられ、幸いにも記念写真をごいっしょさせて頂いた。韓国の巻き寿しやキムチ、お茶にも挑戦し、お腹一杯ちょうだいした後は、国会議事堂のクワイヤーの合唱や錚々たるプロのソロ歌手達による素晴しいコンサートを楽しんだ。翌朝、金大中大統領夫妻を迎えての朝餐会は、午前7時聖歌隊のコーラスから始った。韓国の各界のリーダー達に加え、日本からも数十名、世界からも大勢が参加して盛大に行われた。実業界の代表からは、大統領と国家指導者のために、海兵隊司令官は、国家繁栄と世界平和のために、そして法曹会を代表しては、国難克服、民族和合のために特別祈祷が献げられた。「21世紀の責任あるリーダーとは」のテーマでは牧師が、リーダーこそ仕える人であるべきであるとメッセージを語られた。最後に、金大中大統領が「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」の聖句を引用されて、過去を清算して、知識と情報がキーワードとなる新しい時代に備えねばならない。そのためには、意識改革こそが一番重要であって、ここに集うリーダー達に期待したいと話された。意識改革とは、まず地域感情をなくすために立ち上ることであり、地域の和解と南北の和解、ひいては日本への和解であることを示唆された。小さき者を愛することから始めたい、そして、リンカーンの愛用句を用いて一恐れることなく、自分に与えられた道を進みたいーと結ばれた。大統領ご自身の人生を顧みる時、氏の言葉はまことに感慨深いものであった。国をあげて、その国のため、世界のため、指導者達のために祈る。国会議員達が聖歌を賛美し、もてなし役を勤める。今の日本では考えられない光景がそこにあった。実際、反日感情どころか、今回訪れるところどこにおいても、私達は心からの歓待を受けた。小さな国韓国の天に向って開かれた様な不思議なエネルギーを改めて感じ入った。

最後に、どうしても語りたいことがある。ソウルの街は、南北に大きな漢江が走っている。ソウルから47Km北に向かうと、北の端、驚頭山に到着する。ここの展望台からは、ダイナミックに北朝鮮を見渡すことができる。突然、漢江と交差して流れるイムジン河が目の前に開ける。雲ひとつない澄んだ空に滔々と流れるイムジン河は、ここでまさに北と南に祖国を分断している。空の青さ、美しさが鮮やかなだけに、河ひとつへだてて、祖国が分かれている現実が、歴史が悲しかった。「イムジン河水清くとうとうと流る、水鳥自由に群がり群れ飛ぶよ、誰が祖国を2つに分けてしまったの、誰が祖国を分けてしまったの」青春時代に歌ったあの詩が、私の心に蘇ってきた。なんとも言えない万感迫る思いだった。頭でイメージしていたイムジン河は、とても小さな河であった。でも今、目の前に広がるイムジン河は、まさに滔々と流れる大河である。近くて遠い国、韓国を始めて旅して、私達日本人の犯した罪を心から申し訳ないと思った。そして、辛く悲惨な歴史を持つこの国を神は心から痛んで愛しておられることを実感した。私もこの国を愛する。心をこめて愛すると誓って、帰国の旅についた。

春の移動例会

田中　茂美

平野郷散策・平成11年4月3日

平野郷屋敷にて

1）はじめに

「街ぐるみ博物館」として最近「平野」がマスコミで、その特異な歴史と共に紹介される様になりました。親睦委員の方から「今春の移動例会に」という御希望を受け、ふるさとを御案内させて頂く事になり、急遽小学校の時以来のにわか郷土勉強と相成りました。下見を兼ねて幼い頃より歩き慣れた町並をよく見渡せば、改めてそこに住む人の自負と町を大切にする心が、「町の風景」に潜んでいる事を知る事となり驚く事の多い経験となりました。

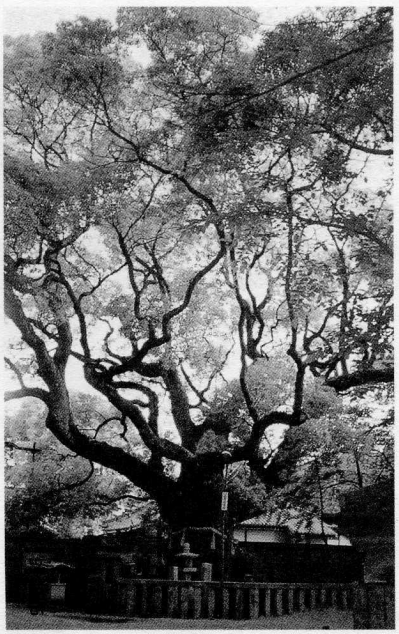
2）平野（平野郷）というところ

平野環濠遺跡

大阪市内の東南の端に位置する平野は、大阪市内で最も古く形成された町で、9世紀に初代征夷大将軍坂上田村磨の子、広野磨が桓武天皇より荘園として下賜され、広野が訛化して、「平野」と呼ばれるようになりました。東に大和・南に紀泉を控え平安時代より交通の要衝として栄え、荘園特権を町の利益と保護の為に維持するよう、坂上氏の子孫が七名家に分かれ町衆の代表者として合議制で町の自治にあたり、時の権力者に働きかけてきました。平野の領主が時代毎に変わっても常に「名目上」に祭り上げ、実際は町衆の合議制による自治を明治になるまで約1000年に及んで行って来ました。室町より戦国時代にかけては町の安全と自治を守る為、町の周囲を二重の堀と土居でめぐらし外敵の侵入を防いだ事により「環濠自治都市平野郷」が成立しました。中世から近世にかけて各地と交易した平野商人の活躍は末吉家のように朱印船により海外に雄飛する大商人を生み出し、在郷町としては、綿や繰綿の産地として名を馳せ、平野川は綿交易の柏原船でにぎわったといいます。幸い戦火を免れ江戸期に完成した町並みや、夏祭り等の多くの歳事は今も町民の生活の中に定着し、都市大阪の片隅ながら歴史ある風土と景観が残されています。

3）散策ルートの紹介

①がんこ平野郷屋敷：集合場所で昼食。くらしの博物館。綿交易で財を成した旧辻本家宅、母家は400年前のもので金蒔絵の什器、駕籠が残存されている「衣装蔵」を見学。②環濠跡：一部疎水に整備され鯉が泳ぐ。③杭全神社：社は1200年近く町民の氏神として鎮守の森と共に大切にされて来た。社殿と大門は府下最古の建築物で重要文化財。参道のくすのきの大木は樹齢800年以上で府の天然記念物に指定されている。④大念仏寺：幽霊博物館（7月のみ）1230年建立の融通念仏宗本山で府下最大の木造建築。山門は旧古河藩邸のものを町民が150年前に移築した。⑤全興寺：駄菓子屋博物館．聖徳太子が建立した薬師堂に由来する寺．境内に地獄堂や地蔵堂がある。⑥梅月堂：和菓子屋博物館。2軒隣りの「あめ嘉」は摂州平野飴として商い歴350年。⑦赤留女売神社：坂上氏は渡来系貴族だったので9～10世紀に渡来人が多く住んだ事に由来する「新羅」の女神を祀った社．⑧地蔵堂：環濠の出入口13ヶ所に作られ各地蔵に名が付いている。堂に入れられ今も大事にされ400年経っても保存状態良好。以上計3～4kmを私のつたない案内のもと3時間半程、皆様に御足労を賜りました。



杭全神社 大楠

4）おわりに

旧平野郷の町は、歩くと時空が止まっている場所に出食わす不思議なところです。通いなれた道、見なれた町並、

大念仏寺：平安中期

そして風景。不変に当然そこにあるものばかりで殊更に感動や興奮を呼び起こすものはなく、静かな佇まいと平穏な人々の営みが延々と続けられて来た小さな下町です。が近年、古来の町並みは崩れ新住宅に変わり歴史の中にとけこんだ風景が消えて行きつつあります。そんな平野にあって自分達の住む町を自分達の力で個性ある住み良い町にしようという気運が町に興り、有志が集り、町の歴史と景観を守る運動や学者と協力しての町並み調査や町づくりの提言や町内に点在する文化遺跡の顕彰を行うようになり、20年前からは、町民出演による「夏のコンサート」、更に我国最初の民間学問所である含翠堂の精神を今に受け継ぐ「含翠堂講座」が再び開講され、明治以後途絶えた「連歌会」も復興となりました。これらは全て古くから受け継がれた多くの歳事と共に、今ではすっかり生活に定着しています。更に多くの人に町を知ってもらう為「町ぐるみ博物館」が11箇所も有志の好意で開かれ、多くの人が訪れるようになり、「平野郷」として知られる所となり、その事が町を大事にしようという住民の連帯感や絆を一層強くしているようでもあります。旧平野郷町民の、今にも生きている意気の高さと自負は、長い歴史に培われた「自治」の精神の根源ともいえるものであり、古き佳き「大坂（大阪）人」の原型ともいえます。モノだけでなく住んでいる人の自負と町を大事にする心が私のふるさと平野の風景です。不十分な点も多々あり皆様に御迷惑をおかけした事と存じますがまだまだ見て頂きたい所も含めて、またお越しの折には御案内をさせて頂きます。

地蔵堂

第三回大阪 II ゾンタクラブ講演会

丸山　優子

恒例の女性と健康シリーズの講演会を1999年2月6日（土）大阪ドーン・センター5階セミナー室にて50名の参加の下、開催しました。今回は女性のガンを防ぐには、と題して大阪医科大学産婦人科教授植木實先生に御講演を御願い致しました。講演後多数の人達から活発な質問が多数ありましたが、解りやすく丁寧な御答を頂き大変勉強になりました。植木教授から御講演の抄録をいただきましたので掲載いたします。多数の方々の御参加に深く感謝いたします。

大阪医科大学産婦人科教授　植木　實

がんは人の死亡原因の第二位を占めます。女性のがんは子宮（頸部・体部）、卵巣、膣、外陰、卵管および乳房に発生します。最近、女性がんの大部分を占めていた子宮頸部癌が減少しつつありますが、これは老人保健法（老健法）による集団および定期検診の啓発による効果の表われと言われています。これに引き換え子宮体部癌や卵巣癌が著しく増加しているが、この傾向は種類的にも類似する大腸癌、乳癌の増加にも一致します。これは日本人の食生活の欧米化によるものと理解されていますが、現在、子宮体部癌は老健法での検診が認められています。しかし集団検診時に手間がかかり、痛みを伴うことおよび老健法の検診の条件が絡むことなどから検診率が伸びていないのが実情です。また、卵巣癌は、早期診断の難しさや集団検診での経済効果の面から老健法の範囲に入らず、啓発を含めた種々の面からも早期検出の努力がなお低いと思われます。本講演では、依然として高い頻度にある子宮頸癌、増加しつつある子宮体部癌、およびsilent disease と言われる恐ろしい卵巣癌について、それぞれの病気の症状、病因、性状や早期および進行期の治療法、治療成績の現状や最も新しい考え方について紹介し、加えてそれぞれの予防法としての日常生活上の注意および三疾患同時の定期検診の重要性について強調しました。

神戸中央ゾンタクラブ

村山　啓子

認証状伝達式に出席して

4月9日、桜の花咲き誇る佳き日、神戸中央ゾンタクラブの認証状伝達式が、神戸に於ける三番目のゾンタクラブとして、ホテルオークラで、兵庫県知事、神戸市長、芦屋市長、ライオンズクラブガバナー、ソロプチミスト神戸会長等の御来賓の方々、国際ゾンタ原菊子ガバナー、26地区L.T.ガバナー、直前ガバナー、当クラブの

SOM委員長であられる伊藤美智子エリアディレクター他、二百余名のゾンシャンの出席のもと、厳粛かつめでたく執り行われました。

会長の岸本洋子様は、元判事の弁護士とお聞きしていましたが、温和な女性らしい、御人柄と拝察しましたが、フェニックス神戸が発足して間もない今日、又々、ガレキの中からその再建を目指して不死鳥の如く、力強く立ち向って行かれるという姿勢に再び感銘致しました。

設立記念寄付は、藤本義一氏理事長の社会福祉法人のぞみ会にも贈呈され、藤本氏のくだけた楽しいお礼の言葉に皆一堂に和しました。

二部の晩餐会は、会員の箏曲演奏、独唱とはじまり、その後、神戸ファッションモデリスト協会会長様の解説で、「自然を謳歌する日本人の美意識を今に……」と題して、ビデオ放映があり、ファッションショーのひと時を楽しむことができました。

私たちのクラブもまる六年を経過、十周年の企画について口にするようになって参りましたが、新クラブ発足の今思うことは、クラブの末永い発展は、脚下照顧と申しますか、メンバー一人一人の力にかかっているという事です。ゾンタ理念の誠実・正直・奉仕・女性の地位向上等を学び実践するかたわらで、メンバー間の親睦と信頼が高まることが一番の目的と思うわけです。各々が異なる社会で仕事する我々ですが、ゾンタの活動を通じて、仕事への活力と原動力を培うことが出来れば、どんなに素晴しいことでしょう！

神戸中央ゾンタクラブの発会に当って、神戸中央ゾンタクラブの末永いご発展と、会員の方達の輝かしいご活躍を祈念して報告とさせて戴きます。

新入会員　自己紹介

今井　嘉子

昨年9月の大阪Ⅱゾンタクラブ VOL.5チャリティー・イベントで娘がショパンのピアノ曲を演奏させて頂きましたのがご縁で、前会長の宮本典子先生からお誘いを受け、私にとってはおこがましい事ではないかと案じながらも今年1月から入会させて頂きました。宮本先生には35年前同じ団地に居住しておりましたり、勤務していた大学でも長年ご一緒でしたので大変お世話になっております。

私はピアノが専門です。現在までの経歴は3年半の大阪音楽大学非常勤講師を経て、和歌山大学教育学部の教官となり、36年半勤務し、今年3月31日付で退官致しました。その間には京都市立音楽短期大学（現京都市立芸術大学）、奈良文化女子短期大学の非常勤講師も勤めました。演奏では、若い頃はNHK大阪放送局から放送される音楽番組でソロ・室内楽・伴奏など致しました。最近は娘と二台ピアノでデュオリサイタルを何度か開催しております。現在は豊中市に居住し、ほんの数人しかいませんが、主婦や子供、音楽大学を志望する受験生にピアノを指導しております。続けているとそれぞれ上達されるのでとても楽しみです。趣味のピアノはストレス解消にもなるようで、生徒はとても楽しんでレッスンに励んでおられます。私には趣味はこれといってありませんが、出身地の南紀州へしばしば出かけ、広々とした海や山の空気に触れ、身も心もリフレッシュしています。

今迄は音楽を通しての世界しか知らずに過ごして来ましたので、入会させて頂いていろいろな分野の方々の中で勉強させて頂きたいと思っております。改めて自分自身の自立と向上を心がけることから始めなければ、と痛感しております。諸先生方のご指導を頂き、お役に立てるように努力したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

萩原　謡子

私は以前から、社会に貢献する様な活動に参加する機会を得たいと思っておりました。ゾンタクラブに入会させて頂くことによって、それが実現することになり、とても嬉しく思っております。平野郷散策移動例会、神戸中央ゾンタクラブチャーターナイト、そして例会と参加させて頂き、大阪Ⅱゾンタクラブのパワフルかつアットホームな雰囲気に触れ、これからが楽しみです。

私自身の仕事について紹介致します。ピアノを弾き始めて三十七年、教え始めて二十六年という現在ですが、思い返してみますと、ピアノを弾くということ自体は変わっていないのですが、ピアノへのアプローチの仕方は随分変化しております。特に最近のコンピューターの発達は、音楽の世界にもはいり込み、コンピューターミュージックや、アンサンブルピアノ（シンセサイザー、自動演奏装置付ピアノ）等を使ってのレッスンが可能になりました。学年が進むにつれ勉強の方にシフトし、ストレスをかかえた生活を送っている子供達に、音楽の楽しさを知ってもらう方法の一つにもなりました。また、少子化とは反対に高齢化社会になり、大人になってピアノを弾く人口が増えつつある最近です。ピアノを弾くということは、頭脳、指先（末梢神経）、感情を同時に使うことから、人間形成にとても役立ちます。年輩の方の生涯学習としても関心を持たれているこの頃です。

私も最新の技術、教授法を取り入れたレッスンをする様、常に勉強を心がけておりますが、音楽の基本はやはり、人間の感性への働きかけと思っております。良い音楽に触れる幸せ、良い音楽を演奏出来るようになる幸せを、少しでも多くの人に知ってもらうお手伝いが出来たらと思っております。

ゾンタクラブを通じてたくさんの方と知り合い、知識や経験を吸収してそれがまたピアノ指導にも生かせたらと思います。これからもいろいろ御指導宜しくお願い致します。

編　集　後　記

1999年7月、空から何も降ってこなかったが、日本の世相は暗い。
楽しい広報誌でひとときの明るさを願おう。（柿）

大阪Ⅱゾンタクラブ　1999年8月1日　広報委員長　辻　康子